

見本



トレード・マークのPWダイヤルやプラグ・イン・コイルが印象深い「HRO-M」

## Feature

最大のポイントは伝統的で独特のルックスを持ったPWダイヤルとプラグ・イン・システム。オーストラリア、ドイツ、日本などの世界各国が軍用無線機のお手本として模倣したことも有名。1934年のHROから1970年のHRO-600に至る超ロング・セラー。HROの名前の由来は1934年プロトタイプが発売に際し、「Helluva Rush Order」(猛烈な受注)を期待して、その頭文字を命名した。9本のプラグ・イン・コイルにより100kc ~ 30Mcをカバー。真空管はST管を使用。アマチュアバンドはネジの差し替えによりバンド・スプレッド専用コイルとなる。

## Specifications

機種名	HRO
メーカー	NATIONAL
製造年	1934-1946年
バンド	Standard coils A : 14-30/B : 7-14.4/ C : 3.5-7.5/D : 1.7-4Mc 4BAND Option coils E : 0.9-2.05/F : 0.48-0.96/ G : 0.18-0.43/H : 0.1-0.2/J : 0.05-0.1Mc
形式	Single Conv
中間周波数	456kc
フィルタ	6Position Xtal/LC fil.
真空管数	9本, ST管
備考	重量24kg, 電源別, バンドス・プレッド切り替え付き, RASは軍用仕様でスプレッドなし

## 1. はじめに

このHROシリーズを有名にした最大のポイントは伝統的で独特のルックスを持ったPWダイヤルとプラグ・イン・システムです。またシンプルな回路構成でメンテナンスの必要部分が少なくといった特徴を備えていたため、オーストラリア、ドイツ、日本などの世界各国が軍用無線機のお手本として模倣したことも有名にした一因です。さらに1934年に発売されたHROに始まって、1970年に発売されたHRO-600に至る超ロング・セラーとなったネーミングの継続も有名にした要因でもあります。

HROの名前の由来は1934年プロトタイプが発売に際し、「Helluva Rush Order」(猛烈な受注)を期待して、その頭文字を命名したことにあると米国ナショナル社はアナウンスしていました。また、軍用仕様であることから、使用されている部品とその材質は素晴らしいもので、現在でも実用機として優れた性能を有しています。

この「HRO」シリーズは、1934年にHROが